香陽小だより

令和７年９月16日 第10号
枚方市立香陽小学校
校長　明井　美絵

何のために「修学旅行」に行くのか・・・？

６年生が９月26・27日と修学旅行に行ってきます。

「小学校のときの一番の思い出は何ですか？」と聞かれて、「修学旅行」と答える人は多いと思います。校長が６年生を担任したときの子どもたちの卒業文集にも修学旅行の思い出について書かれているものがたくさんありました。

一教師として修学旅行について考えると、単なる思い出づくりで終わらせるのは、とてももったいないと考えています。修学旅行を子どもたちの人間的な成長を図るための大きな行事として捉えています。最上級生として、学校の代表として見学先を訪れること、泊まりがけで集団生活をすることに大きな意味を持たせて、何のために修学旅行に行くのか、あらためて考えてみました。

旅行の前に「修学」の文字があります。つまり、旅行である前に「学習」であるということです。修学旅行でしか学べないことがあるはずです。では、何を学ぶのでしょうか。

ひとつは、実際に目で見て、触れて、見学先の魅力（歴史・自然・文化・その土地の人の姿・・・等。）を体感することです。

ひとつは、宿泊を伴う集団生活をする中で、ルールやマナー、自分たちで決めた約束ごとを守り、学校の代表としての役割を立派に果たすことです。

ひとつは、これまで以上に仲間のよさを実感し、絆を強くすることです。

このように書くと、何だかとても説教じみた感じになりますが、子どもたちにしっかり意識をしてほしいと考えています。また、修学旅行当日だけでなく、それまでにも多くの学びがあります。事前の平和学習はもちろんですが、活動するグループや部屋割りなどにたくさん悩んで、話し合い、譲り合い、決めていくことも大きな学びです。そのような時間を経て、修学旅行当日は、今まであまり話したことがなかった友だちの意外な一面を知ったり、実は好きなものが一緒だったということがわかったりと、楽しい体験を共有することで、仲間意識が格段に高まります。

そんな最高の学びを得て、修学旅行から帰ってきた子どもたちには、重要な「義務」があると考えています。それは、この学びを提供してくれた人たち、特におうちの方に感謝することです。

「こんなに楽しい思い出がたくさんできました。修学旅行に行かせてくれてありがとう。」

修学旅行のたくさんの思い出とともに、感謝の気持ちをきちんと言葉にして伝える。照れくさくても、この義務を果たすことが、子どもたちの人間的な成長につながると思うのです。

保護者のみなさまへ　お知らせ

〇８月25日付で教育支援ルーム支援員として〇〇〇〇〇が、９月１日付で支援学級担任として〇〇〇〇が配置されましたのでお知らせします。

〇新しいタブレット端末が配付されました。あらためて、タブレット端末使用時の約束やルール、使い方について、再確認いただきますようお願いいたします。